

国際都市成田へようこそ！



品田理事長

6月4日、国際医療福祉大学成田キャンパスの依頼で、当協会の品田 等理事長と会員の井上シルビアさんが全8回からなる「郷土論」の授業の一環として「国際都市成田へようこそ」というタイトルの講義を行いました。

昨年に続き、ゲスト講師として招かれた品田理事長は、ビデオによる当協会の活動紹介の後、成田市の7つの友好都市、当協会設立の経緯、特徴、課題、将来的なビジョンなどについて講義をしました。

出席した学生たちは、熱心にメモを取りながら講義を聴いていました。理事長は、国際交流活動がこれから社会に出ていく学生たちにとって、視野を広げ、様々な価値観に触れる良いきっかけとなることを祈願して講義を締めくくりました。

また、当協会団体会員の成田ヒスパニックサークルを率いる井上シルビアさんが品田理事長に続き、当サークルの活動内容、歴史、成田市国際交流協会との関わり等についてスライドを用いながらお話しされました。出席者の中には、スペイン語を習っている学生もおり、メキシコの食文化に話が及ぶと特に興味を示していました。

結婚を機に日本に在住することになったシルビアさんは、当初文化や習慣の違いに困難を感じていましたが、次第に日本の生活や言葉に慣れていく一方、祖国メキシコへの思いもあり、成田に住むスペイン語圏の子供たちがヒスパニック文化を忘れずに継承し、成田市民にもメキシコをはじめとする南米の文化に興味を持ち、理解を深めてもらいたいとの思いから当サークルを始められました。10周年を迎えるにあたり、各国大使館とのコラボによる記念イベントが開催される予定です。

当日、聴講した学生たちに「自分の考える国際交流」について考えを記してもらいました。以下にその一部をご紹介します。

- ・国際交流とは、言葉が通じなくても意思が通じるようなもの。言葉が通じなくても、文化の違いを知り、理解を深める。
- ・他国の文化や伝統を知ったり、体験したり、逆に自分が日本の文化や歴史、伝統を外国の人に教えること。
- ・その国の言語を学ぶだけではなく、文化について学び経験すること。
- ・異文化について理解しようとし、異なる点だけではなく、共通する点にも目を向ける。



メキシコ文化について講義する井上シルビアさん



世界の料理を楽しむ会

イラン編

令和最初の世界の料理は、6月2日(日)、ボリュームたっぷりのイラン料理からスタートしました。

参加者は、午前10時衣替えを終えた服装に調理スタイルで、24名が中央公民館調理室に集合しました。元気な子供さんから高校生も含め堅実な年配の方々まで、なごやかな雰囲気の中、調理は進行しました。

今回の料理は、イラン出身の鶴岡アキ氏を中心にアシスタント2名、スタッフ3名で行われました。調理の途中、イランの気候風土や日本との違いなどのお話がありました。

メイン料理の最初は「ゼレシキポロモルク」というイラン風鶏肉の煮込みバーベリーライス添えです。骨付き鶏肉をトマトペーストと数種類のみじん切り野菜などを入れた煮汁で約30分煮込みます。次は、「クフテ」というイラン風豆入り肉団子を作り、中に梅干やナッツなどを入れ、トマトペースト中心の煮汁で味をつけました。主食になる薄焼きイランパンとイラン米の炊き込みがあり、おこげとその他の具材の香りが室内に充満し、みんな笑顔で食事の準備をしました。



クフテ

ゼレシキポロモルク

メインの肉料理に花をそえたのが、「シラジー」というレモン風味のカラフルな野菜サラダです。それぞれのテーブルで盛り付けられた料理をペルシャ語で「いただきます」と声に出して「食」を楽しみました。片付けの後は、集合写真でまともりました。質疑応答も少しあり、にぎやかなひと時でした。関係者の皆さま、ありがとうございました。

(広報部会員 池田雪博)



英会話サロン

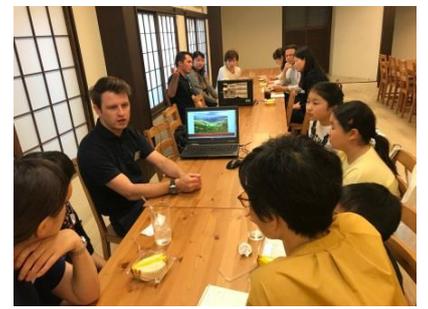


6月9日(日)恒例の英会話サロンがぱん茶屋2階で開催されました。今回は、英国、アメリカ(ハワイ)、南アフリカ出身の講師を招き、終始和やかに、楽しく午後の一時を過ごすことができました。

講師の先生からは、自国の歴史や文化、有名な観光地、料理などパソコンを使用して紹介がありました。先生の話に興味深く聞いたり、質問しながら会話を深めていきました。みんな純粋に英語でおしゃべりすることが楽しくてここに来ていることが伝わってきました。講師のショーン・ハチヤさんがすごく緊張していたので、逆にこちらはリラックスして過ごせました。

今回、小学校6年生の娘とそのお友達も一緒に参加しましたが、間違いを恐れず英語でコミュニケーションし、毎回1つでも良いので言いたいことが「言えた!」という体験を増やして欲しいなと思っています。英会話サロンは年4回予定(今回が1回目)とのこと。まだ行かれたことがない方も、英語を学ぶというより、少し空いた時間にお茶をしながらほっと一息、会話を楽しむといった感じで参加していただけたら。

(協会会員 Naho)



今年の4月末、連休を利用して5日間、台湾へ個人的な旅行で行ってきました。

私の場合、個人的に海外へ行く場合、その目的は「鉄道趣味」、それも写真撮影が目的です。今回の旅行も例外なくそれが目的。しかし、今回は趣味目的だけでなく、今後の国際交流やインバウンドについて、考えさせられることも多かった旅行となりました。

台湾は、九州とほぼ同じ大きさの島に、九州の倍になる 2300 万人もの人口を抱えます。そして、人口の半分に相当する年間 1100 万人もの観光客が訪れます。逆に台湾から外国へ行く人は年間 1600 万人になります。台湾人の一番の渡航先は日本で、2018 年には約 480 万の台湾人が日本を訪問しました。一方で台湾を訪れる日本人は約 190 万人になり、おたがいの交流が深いことが分かります。

一人当たり実質 GDP は 50452 ドルと日本を上回っており、ハイテク産業を中心とした経済は現在も年平均 3 パーセントの成長を続けています。

高い経済力を支える交通インフラ、特に鉄道は 100 年以上の歴史を持ち、島を一周するように路線が敷かれ、特に重要な産業ベルト地帯である台北から高雄までの西海岸沿いには、日本の新幹線を導入した高速鉄道が通っています。台北と高雄には地下鉄も整備され、路線の 8 割は電化されており、速度も速く、本数も多く便利な鉄道は、台湾の人たちにとっても身近な乗り物で、台湾を訪れる観光客にも人気が高く、乗ること自体が観光目的になっています。

日本人の利用に配慮しているのか、駅の窓口では日本語も通じました。「シンカンセンノジウセキ」という言葉が通じたのはびっくりしました。人と言葉が通じるという安心感は案内表示の充実よりはるかに効果的だと感じました。

私は今回、まず台北から列車で 1 時間半くらい東側へ行った太平洋側の地域へ向かいました。そして小さな駅に降り立ちました。駅のすぐ前は太平洋、空も海も青一色で、4 月だというのに気温は 30 度を超えています。ここは現地でも有名な鉄道写真の撮影ポイント。既に現地の鉄道ファンもカメラを構えていました。台湾は韓国と違い、「鐵路迷 (ティエルーメイ)」と呼ばれる鉄道ファンが急増しています。

彼らは日本の鉄道ファンに興味深々で、撮影の合間にいろいろ話しかけられました。新幹線をはじめ台湾の列車は日本製が多く、日本の鉄道には強いあこがれと親しみがあるのです。カメラのこととか、どうやってこのポイントを知ったのかとか、日本の列車のこととか…。どうやって会話したか？ 中国語と日本語と英語のゴチャマゼ + 漢字の筆談で、何とか通じました。海外の鉄道ファンと会話する際は、いつもこんな感じです。共通の趣味を持っていると、ニュアンスの似た単語も共通で、言葉を知らなくても意外と通じるのです。

それ以上に、彼らは日本語を結構勉強しているようで、簡単な単語や会話が理解できるのに驚きでした。台湾は路線がそんなに長くはなく列車の種類も限られてしまうので、海外の鉄道に興味を持つファンが多く、進んで海外の知識を取り込もうとするのです。海外に目を開こうという姿勢は、実は、日本の鉄道ファンに一番不足している所だと、常に私は思っていました。日本の鉄道趣味は内向きなのです。でも、学ぶべき事例は海外にまだまだたくさんあると今回気づかされました。もっと、台湾のファンを見習わなくてはなりません。

これは鉄道ファンに限った話ではありません。外国への興味と外国語を学ぼうとする高い意欲は、台湾の人々に共通することだと今回あらためて気づきました。

ホテルマンだけでなく、地方の駅員も、タクシーの運転士も、コンビニの店員も、屋台のおばさんも、簡単な日本語で話しかけてきました。そして、こっちはカタコトの中国語、相手はカタコトの日本語で会話が成立しました。

インバウンドが日本でも注目され、観光庁が設立されて 10 年あまり、外国人観光客 3000 万人時代、その現在においても、「言語」は大きなバリアとなっています。駅などの案内表示は 4 か国語表示が充実してはいます、しかし、「会話」は？ 日本を訪れる外国人のうち、中国、韓国、そして台湾の 3 地域で 7 割以上をしめます。英語だけでなく、中国語なども会話できれば素晴らしいと感じます。別にパーフェクトに会話ができる必要はありません、簡単な日常会話、それだけでも全然違うのかなと、そして日本語交わりでも外国の訪問者と会話していく勇気が必要。それを今回台湾の皆さんに教えてもらったような気がします。



台湾の桃園国際空港



台湾の特急列車(普悠馬号) 日本製



ホームビジット協会よりお知らせ

右記のとおり、成田市ホームビジット協会による、サンプルノ市中学生訪問団随員 4 名の方々のための歓迎夕食会を開催します。訪問団が成田で過ごす最後の夜に夕食をご一緒しませんか？

日 時：7月7日(日) 18:00~20:00 会 場：千離宮 (成田山表参道沿い)
対 象：10名 (会員限定) 申込先：090-3061-0165 (ホームビジット協会 イマ今来)

スペイン語サロン 参加者募集!

令和元年度初のスペイン語サロンを開催します。今回も、スペイン語圏の方々 3 名をゲスト講師としてお迎えします。スペイン語を通しての国際交流に参加してみませんか。

日 時：8月4日(日) 14:00~15:30 会 場：ぱん茶屋 (上町 551)
参加費：500 円 定 員：15 名 (会員限定)
申込先：成田市国際交流協会 Tel 23-3231

広報部会ツアー 参加者募集!

広報部会主催研修ツアーを下記の行程で実施します。今年はメキシコにゆかりのある御宿と近年外国人観光客にも人気のある勝浦を訪れます。会員同士の交流をお楽しみください。(※日程は現在での予定です。)

日 時：8月27日(火)
参加費：3,000 円程度
(バス代・入館料・昼食代込)
定 員：25 名 (会員限定)
申込先：協会事務局 Tel 23-3231
締 切：7月31日(水)

7:50	市役所出発
10:00	御宿(月の砂漠博物館等)
11:20	メキシコ記念塔(記念撮影)
13:30	勝浦(海の博物館・海中公園)
17:30	市役所到着

成田ヒスパニックサークルよりお知らせ

成田ヒスパニックサークルは、設立 10 周年を記念して、各国大使館との 5 回にわたる記念イベントを成田市にて開催予定です。第 1 回目は 7 月 14 日(日)、13:00 より中央公民館にてキューバ大使館との共催で行われます。詳細は、当協会ホームページをご覧ください。

問合せ：成田ヒスパニックサークル代表 井上シルビア silinoue@hotmail.com
090-9100-1320

国際交流カレンダー(7月)

2日(火)~9日(火) サンプルノ市中学生訪問団受入
9日(火) 広報部会・編集会議(市役所/16:30)*
23日(火) 広報部会・最終校正(市役所/16:30)*

* 印のついているものはどなたでも参加できます

編集後記

7月になれば、成田のお楽しみは祇園祭です。日本各地、世界各国から成田祇園祭を目当てに大勢の人が集まり、盛り上がります。

梅雨時ですが、良い環境で共に楽しみ、後の清掃もきちんと行い、しっかりした伝統を継承していきたいですね。祇園祭の最終日は七夕ですので夜空も楽しみましょう。
(Y.IKEDA)

ニュースレター (毎月 1 日発行)

[編集・発行] 成田市国際交流協会広報部会(〒286-8585 成田市花崎町 760 成田市役所文化国際課内)
Tel:0476-23-3231/Fax:0476-22-4494/E-mail: nifs@ngy.3web.ne.jp

成田 国際交流

検索

再生紙を使用しています



NIFS